

移住者日記

No.9



川俣町

鈴木 亮平 様

埼玉県の写真スタジオに勤務していた頃、今後の暮らしを見直したい思いが膨らんでいました。大学進学のために生まれ育った福島県いわき市を離れ、15 年が経っていました。自分にとって理想的な暮らしとはどのような生活だろうと考える中で、自然と共に生きる暮らしを実現させたい気持ちが大きくなり、移住を検討し始めました。小さな頃から好きだった写真の仕事は続けられないであろう寂しさもありましたが、移住先で別のやりたいことが見つかるのではないかとという前向きな気持ちもありました。妻と息子は少し不安があったかと思いますが、移住に賛成してくれました。住宅や畑等の条件と、少しでも故郷にゆかりがある方がいいという思いから、福島県内で移住地を探した中で、川俣町と巡り合いました。移住体験ツアー参加後に移住を決意し、それからの我が家の行動は早く、半年ほどで川俣町での生活が始まりました。放射線への不安はもともとありませんでしたが、農作物や鳥獣等に関する放射線の情報を調べるため、移住前に町役場に問い合わせました。野菜から検出される放射性物質の現状や鶏を飼う際の対策等を教えてもらい、放射線の影響が少ないことが確認できました。今は広報誌で食品検査結果等を見て情報収集しています。川俣町は放射線に関する情報が充実しており、とても勉強になります。

移住後に始めた野菜作りは感動の連続でした。食べきれないほど野菜を作ってしまう失敗もありましたが、調理法を工夫したり、弁当を作って SNS で発信したりしています。冬にはストーブで使う薪作りを始めました。完成まで 1、2 年かかるものもあり、その薪で暖まるときは格別だろうなあと未来を見据えながら今を楽しめるところも自然の暮らしの魅力です。思いがけないことでは、井戸水が枯れることも知りました。枯れてお風呂がためられないときは、銭湯の大きなお風呂を満喫しています。この通り、失敗も不便も楽しみ、次に繋げています。町の暮らしでは多くの出会いがあり、お誘いを受け、自治会や消防団にも参加しています。ほどよい距離感のコミュニティで無理なく人間関係を築くことができたことで、地域の皆さんに支えられ、何か困ったことがあっても助けてもらえる安心感があります。川俣町は子どもがいる生活にもとても良い環境です。学校では少人数クラスでの授業や放課後の地域主体のプログラム等の手厚いサポートを受けることができ、また、町には習い事の選択肢も多いです。息子の学校探しは移住にあたっての大切なポイントの一つであったため、教育環境が整えられて安心しています。自然を求めて移住してきたため、町に何があるかは重要視していませんでしたが、川俣町には豊かな自然のすぐそばに便利な側面があり、とても生活しやすいと実感しています。

この 1 年間は初めてのことばかりで余裕がありませんでしたが、今後は写真や動画等、自分自身の得意な方法で自分たちの暮らしを発信し、町の魅力や今の様子を伝えることにも挑戦したいと考えています。まずは、移住後 1 年の暮らしぶりをまとめたいと思います。農業では、お米やスーパーに並んでない作物作りも計画しています。私はやりたいことが続いていく生活が幸せだと考えています。そして、川俣町にはこの想いを実現できる場所があり、移住してから毎日が楽しいです。